2020. 10　No.77

平和記念だより

◆編集・発行：高松市　人権啓発課　高松市平和記念館
◆連　絡　先：高松市松島町一丁目１５番１号
たかまつミライエ５階
TEL:087-833-2211　FAX:087-833-2244

高松空襲写真展

令和２年６月２７日（土）から７月６日（月）まで、平和記念館映像学習室において、「高松空襲写真展」を開催しました。昭和 20（1945）年７月４日未明、高松は米軍による空襲を受け、旧市街地の約８０％が焦土と化し、1,359 人もの尊い命が失われました。平和記念館では、毎年この日を含む期間に高松空襲の惨状を伝える「高松空襲写真展」を開催しています。

今回は、焼け残った木造の国鉄高松駅や高松郵便局の写真、空襲後の法泉寺お釈迦さま周辺を描いた絵画など、２３点を展示しました。

テレビや新聞などの取材が多数あり、ニュース映像や新聞記事をご覧になって、ご来館された方もおられました。

ご来館された方の中には、会場の写真や絵画のパネルを見ながら、「Ｂ２９を狙って地上からも高射砲で反撃していたけれど届くことはなかった。」「上空を飛んでいく Ｂ２９に向かって攻撃するふりをした教員を見て笑ったため、ひどく叱られた。」と、空襲当時の様子や戦時中のことを詳しく話してくださる体験者の方もいらっしゃいました。

また、数名の方から「戦争の悲惨さを後世に伝えるために、今後もこのような写真展などの催しを続けてもらいたい。」とのお声掛けをいただき、誠にありがとうございました。

平和記念館では、高松空襲関係の資料や戦争遺品、当時の生活用品などを、多数、常設展示しています。皆様のご来館をお待ちしております。

高松空襲写真展
ご来場者アンケートより
ご協力ありがとうございます！

今の平和をかみしめております。亡くなられた方を忘れないよう感謝して生きたいと思います。今の子どもたちにもっと伝えるべきです。二度とあってはならない戦争です。（50 代：女性）

戦争の悲惨さをこの写真展で強く感じました。歴史を伝える人も少なくなっている時代ですので、良い催しだと思います。（60 代：男性）

体験者も高齢化し、新たな証言も得にくくなっている中、証言の抜粋なども展示してはどうか。多様さを反映させるため、様々な年代や立場からのものを展示したほうがいいと思う。（30 代：男性）

高松市戦争遺品展

令和２年７月１４日（火）から２０日（月）まで、瓦町ＦＬＡＧ２階コンコース（ことでん瓦町駅改札前）において、「第３０回高松市戦争遺品展」を開催しました。高松空襲の被害状況が分かる市街地図、焦土と化した市街地や戦時下の暮らしを写した写真パネルや多数の遺品など６５点を展示しました。瓦町ＦＬＡＧ２階コンコースでの開催は、今年で３回目となります。

今回、「戦時下のくらし」のコーナーでは、戦時下最大のヒットメーカーだった作曲家、古関裕而（こせきゆうじ）氏の手による軍歌「若鷲の歌」のレコードを展示しました。古関氏は NHK 連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルになっていることもあり、多くの方の注目を集めました。

ご来場された方の中には、高松空襲の資料を見ながら、「父親が戦争を経験した。今は亡くなってしまったが、生前、夜中に高松空襲のことを思い出して震えていた。」と、つらそうに話す方もおられました。

また、「石清尾八幡宮で祈念する女学生」のパネルを見ていた方からは、「この高等女学校の制服のスカートの裾には一本の線が入っており、当時、通称で“ワン（ONE）”と呼んでいた。」との貴重なお話を聞かせていただき、このパネルのキャプション(説明)にその旨を補足させていただきました。

その他にも多くの皆様から、当時の体験談、ご意見やご感想をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。

戦後７５年が経過し、戦争の記憶はますます風化して、忘れ去られようとしています。戦争の悲惨さや平和の尊さを新しい世代に伝えていくことが、平和を守ることに繋がります。

より多くの皆様にご覧いただくため、「戦争遺品展」の展示内容等の充実に努めてまいります。

高松市戦争遺品展
ご来場者アンケートより
ご協力ありがとうございます！

わざわざ出かけていかなくても、見ることができるので、ここ（瓦町 FLAG２階コンコース）で開催するのは良いことだと思う。（40 代：女性）

テレビ放映中の「エール」にあわせて、「古関裕而」のレコードを展示しているのが興味深かった。今後も、テーマ性のある展示をお願いしたい。（20 代：男性）

小学４年生の夏のことを今でもよく思い出します。孫たち、ひ孫たちの世代に伝えるための活動を続けられている方々に感謝します。（80 代：女性）

平和学習に役立つ収蔵資料のご紹介

修学旅行や校外学習で沖縄や広島を訪れている小中学校では、新型コロナウイルス感染症の影響で、行き先を変更せざるを得なくなったため、平和の大切さを学ぶ機会が失われ、平和学習に苦慮しているとの声が聞こえてきます。

平和記念館では、平和学習に役立つ写真パネルや実物資料、ＤＶＤなどの貸出しを行っています。

なお、ＤＶＤには、戦争の悲惨さを描いたアニメや高松空襲経験者の「語り」を収録したＤＶＤ「あの日わたしは～当時を伝える証言者の声～」（ｍｐ４動画）などもあります。

その他、「高松空襲と戦時中の生活」について学べるプレゼンテーション用ＣＤ-Ｒも貸出しを行っています。

学校・園での平和学習の教材として、ぜひご活用ください。

実物資料貸出しセット内容　※は、レプリカ

焼夷弾	防空頭巾
ゲートル(布製)	水筒
モンペ	衣料切符※
家庭用菓子購入通帳※	充員召集令状※
罹災証明書※	防空必勝の誓(大・小)※

プレゼンテーション用 CD-R

「高松空襲と戦時中の生活」
パワーポイントデータ
プレゼン用シナリオ

▼今後の行事予定▲

11月

● **平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭**

期　日　令和２年１１月１４日（土）
場　所　たかまつミライエ　１階多目的室
内　容　朗読劇「高松空襲の夜」上演
　　映画「夕凪の街　桜の国」上映

3月

● **高松市戦争遺品等収蔵品巡回展**

期　日　令和３年３月１８日（木）～３０日（火）
場　所　香南歴史民俗郷土館
内　容　市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示

※　新型コロナウイルス感染症の拡大などの状況により、開催を中止・延期する場合があります。

檀紙村（だんしむら）のアルバム

寄贈者　　金倉　修 様

檀紙コミュニティセンターの倉庫を片付けていた際に発見されたアルバムである。

アルバムには、1930（昭和５）年から 1944（昭和１９）年の間に撮影された５５枚の写真が収められている。

学校の講堂で営まれた戦死者の「村葬」の写真（A）や遺家族慰安会などの記念写真（B）が多数あり、1931（昭和６）年の満州事変以降、檀紙村出身の多数の兵士が亡くなられたことがうかがわれる。

また、県下の銅像類が、金属供出のため、玉藻公園の桜の馬場に集められたときの貴重な写真もある。背後には、紅白の幕が張られ、二宮金次郎や楠木正成など、約 60 体の銅像、胸像が並べられている。

金属供出は、日中戦争から太平洋戦争にかけて、戦局の悪化と物資（武器の生産に必要な金属資源）の不足を補うために、1941（昭和１６）年に公布された「金属類回収令」に基づいて行われたものである。

A「村葬」

B「遺家族慰安会」

C「玉藻公園の金属供出の銅像」

檀紙村は 1956（昭和 31）年、15 か町村合併により高松市に編入され、高松市檀紙町となった。

編集メモ

本年は、戦後７５年、被爆７５年となる節目の年ですが、新型コロナウイルスの感染拡大により、残念ながら全国的に様々な平和事業が中止・延期・縮小を余儀なくされています。

本市が加入している「日本非核宣言自治体協議会（非核都市宣言等を実施した自治体で組織）」では、このような状況の中でも、平和への願いを強く発信するため、協議会ホームページのトップ画面に、会員都市の首長による「平和の願い　未来へのメッセージ」をスライドショーにして公開しています。本市の大西市長のメッセージも公開されていますので、ぜひご覧ください。

たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ５階）

開館時間：午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
休　館　日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入　館　料：無料
▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）　▲QR コード
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html